「絵馬は楽しい文化財」

神社にお参りに行き絵馬殿や神楽殿等の上を覗くと、いろいろな絵馬が掛けられていることに気づくと思います。今回、ご紹介する稲美町国安の天満神社の算額は、とても貴重なものです。昭和 61 年 8 月には、近畿数学史学会が再調査をするほどのものです。

算額とは数学の絵馬で、問題が解けたことを神仏に感謝し、さらに数学に励むことを祈願して奉納されたものです。奉納されたのは、明治 9 年(1876)10 月で、奉納者は、佐藤善一郎貞次という人物です。 備中井原の人といわれています。

日本の和算は世界的にもレベルが高く、算聖と崇められる日本数学史上最高の英雄的人物とされた関孝和は、江戸時代に微分積分学の基本定理を発見しています。

さて、この算額の問題は、どのような内容のものでしょうか。５問が記載されています。算額右から順に、第１問は、円径を求める問題。第２問は、三角形内に正方形があり、その際の円径を求める問題。第３問は、２つの円が内接している時の円の直径、斜の長さを求める問題。第４問は、円と菱形について、円径を求める問題。第５問は、扇面形について、面積を求める問題です。この算額に記された問題は、いずれも図形の問題で、測量技術を試すものといえます。

この算額が奉納される１ヶ月前にも、高砂市生石神社に佐藤善一郎貞次の奉納があります。明治 18 年（1885）丹波市青垣町の遠坂熊野神社でも同一人物での奉納が確認されています。

加古川周辺の学問的水準が高いことを示す文化財が今に残っていることはすばらしいことだと思います。

ぶらり加古川第 39 号

平成 28 年 11 月